

2007年6月19日

(財)日本サッカー協会審判委員会 各位  
地域サッカー協会審判委員会委員長 各位  
都道府県サッカー協会審判委員会委員長 各位  
1級審判員および女子1級審判員 各位  
JFA審判アセッサー 各位

(財)日本サッカー協会審判委員会  
委員長 松崎康弘

## サッカー活動中の落雷事故の防止対策について

拝啓、

初夏の頃、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。又、平素より当委員会事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、過日試合中に大気が不安定となり雷が発生したにもかかわらず、試合が継続されたケースについて報告がありました。

当協会は、2006年4月11日付け「**日サ協発第060015号:サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針**」(別紙)をもって、サッカー活動に発生した雷による事故が発生しないように、未然の対策を講じるよう求めています。

特に主審については、競技規則第5条に基づき、担当する試合の停止、中断または終結する判断を行う必要があります。

雷は、夏のみならず季節を通じて発生します。審判員がサッカー競技の審判を行うに当たり、当該指針及び参考資料を十分に理解すると共に関係者のアドバイスを十分に考慮し、また、雷の急な発生時にはお互い協力するなどして、事故に至らないよう、過信することなく最善の策を取るようお願いいたします。 敬具

別紙

日サ協発第060015号

都道府県サッカー協会／地域サッカー協会 専務理事／理事長 各位  
各種サッカー連盟 御中

2006年4月11日  
(財)日本サッカー協会

## サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針

### 1[基本的指針]

すべてのサッカー関係者は、屋外でのサッカー活動中(試合だけでなくトレーニングも含む)に落雷の予兆があった場合は、速やかに活動を中止し、危険性がなくなると判断されるまで安全な場所に避難するなど、選手の安全確保を最優先事項として常に留意する。特にユース年代～キッズ年代の活動に際しては、自らの判断により活動を中止することが難しい年代で有ることを配慮しなければならない。

※全てのサッカー関係者とは、主として指導者(部活動の顧問を含む)、審判員、運営関係者とするものである。

2基本指針の実行のために、下記の事項について事前によく調べ、また決定を行ったうえで活動を行うものとする。

①当日の天気予報(特に大雨や雷雲について)

②避難場所の確認

③活動中止の決定権限を持つ者の特定、中止決定の際の連絡フローの決定

※サッカー競技規則上では「試合の中止は審判員の判断によること」となっているが審判員が雷鳴に気づかない、審判員と他関係者との関係で必ずしも中止権限を審判員がもてないケース(例えばユース審判員;これに限らない)などもあり、このよう

な場合は中止を決定する／または審判員に中止勧告を行う人間をあらかじめ明らかにしておくこと

※トレーニングやトレセン活動なども活動中止決定者を事前に決めてから活動をはじめめるものとする。

※中止決定者が近くにいない状況で現象が発生した時は、その場にいる関係者が速やかに中止を決定できることにしておく事。

3大会当日のプログラムを決める際はあらかじめ余裕を持ったスケジュールを組み、少しでも危険性のある場合は躊躇なく活動を中止すること。

大会スケジュールが詰まっていたり、テレビ放送のある試合などでも、本指針は優先される。従って事前に関係者(放送局、スポンサー含む)の間において、選手・観客・運営関係者等の安全確保が優先され、中止決定者の判断はなによりも優先されることを確認しておくこと。

4避雷針の有無(避雷針が有るからといって安全が確保される事はないが、リスクは減る)や避難場所からの距離、活動場所の形状(例:スタジアム、河川敷G、等)によって活動中止の判断時期は異なるが、特に周囲に何も無い状況下においては少しでも落雷の予兆があった場合は速やかに活動中止の判断を行うこと。

以上

---

## 参考資料

### <落雷の予兆>に関する参考資料

文献『雷から身を守るにはー安全対策Q&Aー改訂版』(日本大気電気学会編、平成13年発行)には、落雷被害を避けるための予知方法について次のように記述されている。以下抜粋して掲載する。

「どのような方法でも発生・接近の正確な予測は困難ですから、早めに安全な場所(建物、自動車、バス、電車などの内部)へ避難することです。

モクモクと発達した一群の入道雲は落雷の危険信号です。厚い黒雲が頭上に広がったら、落雷がさらに近づいてきたと考えてください。落雷が近づくときは、多くの場合は突風が吹くとともに気温が下がり、やがて激しい雨になります。しかし、突風や降雨より落雷が先に起こることがありますので、早めの避難が大切です。」

「雷鳴はかすかでも危険信号です。雷鳴が聞こえるときは、その後の雷が自分に落ちてくる危険がありますから、すぐに安全な場所に避難してください。雷鳴が聞こえなくても雨も降っていないときに、突然落雷が発生する場合がありますので、雷鳴だけで雷の発生や接近を判断するのは危険です。

もっと遠いところの雷の発生は、ラジオで中波や短波のAM放送を受信していると、ガリッガリッという雑音が入ることにより、検知できます。雑音の間隔が短くなり、激しく連続的になるときは、雷がさらに接近してくるときです。このときはラジオの雑音だけでなく、雷鳴にも注意してください。雷鳴が聞こえてくれば、雷雲はすでに危険な範囲に入っています。」

「自動車、バス、列車、鉄筋コンクリート建築の内部は安全です」「本格的な木造建築の内部も普通の落雷に対しては安全です。しかし、テントやタン屋根の仮小屋の中は、屋外と同様に雷の被害を受ける危険があります。」

「絶えず雷鳴に注意し、空模様を見守ります。雷鳴が聞こえたり雷雲が近づく様子があるときは、直ちに近くの建物、自動車、バスの中に入り、安全な空間に避難します。雷鳴は、遠くかすかに聞こえる場合でも、自分に落雷する危険信号と考えて、直ちに避難してください。雷活動が止んで20分以上経過してから、屋外に出ます。

屋根のない観客席も危険ですから、安全な場所に避難します。」